

# Monthly Magazine Matsunami

[発行]社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

2017 June  
06  
No.212



NEWS



社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長  
松波 和寿

## ▶はじめに

「新たに連携医になって頂いた先生および、当院に入職した職員向け、当院の歴史を振り返り」

1902年に曾祖父の松波義太郎が岐阜市加納町で松波病院を開設し、1933年には祖父の松波賢吾が一昨年までまつなみ老人介護保健施設(250床)として親しまれてきた病院を建設し(現在は解体後に駐車場として使用)、1988年に名誉院長である松波英一が松波総合病院(437床:現サウスウイング)を建設し、2014年に理事長である松波英寿がノースウイングを建設し501床へと拡大しました。

又、当院は最先端医療機器をいち早く取り入れ、笠松町に居ながら世界の最先端機器を提供できる環境を整えて参りました。例えば1977年にまだ正規輸入されていなかったCTを全国で3番目に設置、1988年にはMRIを岐阜県で1番に設置、2010年にはダヴィンチを岐阜県で2番目に設置するなど、日々進化をしています。

今後の岐阜県域での急性期医療は、岐阜大学附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が担うと明記され、大きな使命を与えられたのと同時に邁進しなければならない責任を感じています。

## ▶平成28年度の濃尾地域包括ケア研究会の1年

連携医の数は年々増加し、現在は298施設となり主に病院の20キロ圏内に連携医の先生がいらっしゃいます。平成28年度に新たに連携医となつて頂いた施設は16施設でした。

紹介患者数・逆紹介患者数は10,000件を超え、紹介して頂いた患者さんは紹介元に必ずお返しするようにしています。救急車搬送患者数は、今年は増加し救急車で来院された患者さんは極力入院して頂き経過観察を行い、容体を確認してから翌日以降に退院して頂いております。

## Matsunami Information

### NEWS

#### 日本感染管理ゲストプラクティス "Saizen" 研究会にて受賞されました。

平成29年4月22日(土)大阪国際会議場にて「日本感染管理ゲストプラクティス "Saizen" 研究会第12回セミナー」が開催されました。当院から、看護師の川島由子さんが発表し日本感染管理ゲストプラクティス "Saizen" 研究会 ベストプラクティス賞を受賞しました。

日本感染管理ゲストプラクティス "Saizen" 研究会は、医療施設・介護施設・在宅における医療関連感染を最小限にし、経済的負担を最小限にするための実践的な改善プログラムの研究の進歩発展と普及を図ることを目的としています。その結果を医療・介護従事者に普及させ現場の改善の支援をする事を目的に会が設立しました。

その中で「ベストプラクティス賞」は全国で2名しか表彰されない賞です。今後も、邁進して行きます。



#### 『出帳!まつなみ産婦人科!』を開催しました。

平成29年5月21日(日)にイオンモール木曽川にて『出帳!まつなみ産婦人科!』を開催しました。

イベントでは、赤ちゃん人形抱っこ体験やオムツ交換体験・妊婦体験など行いました。イベントに参加したカップルは、「妊婦体験やオムツ交換を体験した際に、男性から「妊婦はしゃがんだり、何か拾ったりするのがこんなに大変なんだ」と妊婦の大変さを感じ「妊娠した時には、今回の体験を活かします。」と話していました。

今回も多くの方に参加して頂きありがとうございました。今後もイベントを通して多くの方とコミュニケーションが取れるようにして行きます。



### f 注目 Facebook

#### 平成29年5月2日(火) 『日曜日に乳がん検診が受けれる日』を開催しました。

今日は前回ご好評いただいた『日曜乳がん検診』の第2弾を開催いたしました。

仕事に子育てや介護など、毎日目の回るほど忙しい女性の方々が、家族の協力が得られる日曜日だからこそ、ご自身の身体と向き合っていただく良い機会になったと思います。

会場の片隅に開設したリボンカフェでは、「気にはしてるけど家族のことを優先しちゃって、自分のことはつい後回しにしちゃうのよ?」なんてお話を伺ながら、少しばかり連絡いただけたのではないか。

次回は10月15日に開催予定です。

また近くになりましたらご連絡いたしますね!



### お知らせ

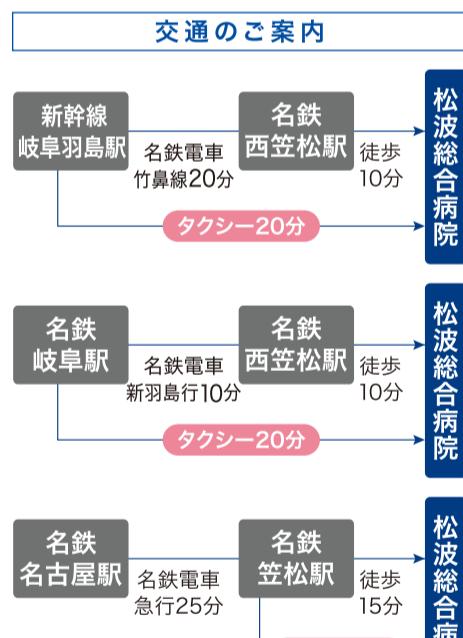
#### 松ゼミ(松波ナーシングスキルアップセミナー)

テーマ	やってみよう!ストーマケア ～ストーマケアの基本を学んでみませんか～
日 時	平成29年6月20日(火)17時30分～
場 所	松波総合病院 南館 1階 MGHホール
講 師	皮膚・排泄ケア認定看護師 鶴飼 淳



#### コンサート 「サラマンカホールから本物の音楽をお届けします。」

日 時	平成29年6月22日(木)14時00分～
場 所	松波総合病院 南館 1階 エントランス
演 奏者	桐の響きを楽しむ会
演 奏	リスト:ハンガリー狂詩曲 / ハイドン:ジプシートリオ 他、数曲



社会医療法人蘇西厚生会  
**松波総合病院**  
〒501-6062  
岐阜県羽島郡笠松町田代185-1  
TEL 058-388-0111(代)  
FAX 058-388-4711  
<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>

# 濃尾地域包括セミナー講演内容

講演 1

## 「地域包括ケア時代」生活に戻すための他職種連携



四国医療産業研究所 所長 / 日本医師会総合政策機構 客員研究員  
日本医療マネジメント学会 愛媛県支部長 / 滋賀県医療福祉推進アドバイザー 他  
**榎本 真聿先生**

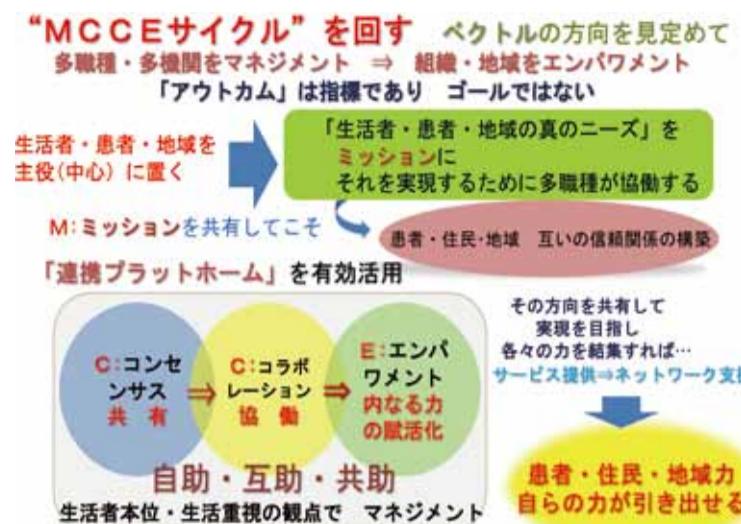
生活に戻すための他職種連携について、ご講演を頂きました。

連携とは、「目標を明らかにした上で共有し、その実現のためにお互いの力を引き出し合う関係」

目的を明らかにするには、課題や手段ではなくゴールを共有すること。その人らしい「生き方」、「死に方」を実現するためには、未来志向型、高齢社会を明るいイメージとして捉え “力を合わせれば大丈夫” その実現に向けた協働による可能性を信頼し、常に変わる姿勢、危機感を持って積極的に変化に対応することの大切さをお話し頂きました。

人間の死亡率は100%です。満足できるその人らしい人生を実現するために入院の時から退院を考え治療する。

生活者・患者・地域を中心置き、地域の「真のニーズ」を実現するために他職種が協働する事で患者・住民・地域が互いに信頼関係を構築し、その方向性を共有して実現を目指す事の大切さ。各々の力を結集すれば「サービス提供」→「ネットワーク支援」により、患者・住民・地域力、自らの力が引き出せるなど、今後の連携について学ぶことができました。



満足できるその人らしい人生を実現するために



講演 2

## 開業医が楽になる医療連携～外来診療から看取りまで～



医療法人社団 守一会 北美原クリニック理事長  
函館五稜郭病院客員診療部長  
**岡田 晋吾先生**

岡田先生が開業されている診療所の置かれている状況や地域連携、地域連携室への不満と期待、質の高い地域連携・他職種連携についてご講演して頂きました。

函館市は、年少者人口(0~14歳)26,784人、生産年齢人口(15~64歳)150,687人、老人人口(65歳~)87,688人の合計265,159人となり、人口は減少し高齢化が進んでいる市になります。大都市ではビル診などが多く、医療モールへの進出、患者ニーズの変化など取り巻く環境は昔と大きく異なっています。開業医も徹底した専門性の追求、かかりつけ医機能などニーズに応えるよう日々変化しています。

連携では、新しいことを病院の担当者が説明に来ますが、説明不足で新しいサービスについて不明な事が多い。例を上げると「地域連携パス」をどのように運用するのか?どんなメリットが患者さんと開業医にあるのか?など不明な事が多く、説明不足は否めません。その為、当院では地域連携パスなどを対応する看護師、事務員も一緒に勉強会に参加します。一緒に参加してもらう事で現場スタッフが理解し、スムーズな対応が出来ます。又、勉強会では多くの他病院の方が参加されるので、他病院との交流・連携が個々のスタッフ間で出来るメリットがあります。

これにより、業務で不明な事があった場合、私が直接病院に電話をして確認することなく、担当者同士で直接電話し、不明な事を確認するなど他病院との連携が出来るようになりました。

日々の電話や手紙は「連絡」であり、必要時の会合は「連携」になり、定期的に会合することは「統合」になります。

医師同士だけではない顔の見える環境づくりをする事の大ささをご公演いただきました。



**「かかりつけ医」とは  
(定義)**

なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保険、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

(医療提供体制のあり方) 2013年8月8日 日本医師会・四病院団体協議会より



## 新入職員歓迎会

去る4月22日(土)18時30分よりグランヴェール岐山において法人新入職員60名と前年度入職者30名のみによる歓迎会が行われました。

今回で6回目となる催しで、毎年同じ場所で開催される濃尾地域包括ケア研究会のセミナーで勉強後に、新入職者と2年目の職員が、3年目以上の先輩職員なしで一緒に飲食し、ビンゴで盛り上がり、自由に楽しく情報交換などを行ってもらおうという主旨で「まつなみ親睦会」が開催してきました。



### 新入職員のひとこと

全員各部署での業務が始まり、なかなか皆で揃う事はなくなりますが、いつまでも職種を超えた同期として、今後も気軽に情報交換・ストレス発散など交流をされ、社会人としても成長し、地域住民の皆さんに信頼される医療・介護を提供できる人材になるよう見守っていきたいと思いました。